

2019年 自治医科大学



高校生

小論文コンテスト

スピーチ動画コンテスト



テーマ

デジタル時代の地域医療とは〇〇である

大好評

ロボット手術
今年も**ダ・ヴィンチ体験**できます!!

入賞者は、7月25日、26日に行われる
2日間の**医師体験セミナー**にご招待!



募集期間
2019年

4/1~5/20

【応募資格】

日本国内の高等学校に在籍している生徒（1~3年生）

【賞】

大賞（各部門1名）

医師体験セミナー招待*、図書カード 10万円分

優秀賞（若干名）

医師体験セミナー招待*、図書カード 5万円分

入賞（各部門10名、総計20名）

医師体験セミナー招待*、図書カード 千円分

佳作（80名）

図書カード 千円分

* 交通費、宿泊費を含む（セミナー：7.25~26）

交通費は高校最寄りの公共交通機関から大学までの旅費を支給（大学旅費規程による）

【表彰式】

2019. 7. 25（木）



2018年大賞・優秀賞受賞者



自治医科大学
Jichi Medical University



<問い合わせ先>

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1

自治医科大学 学事課「小論文・スピーチ動画コンテスト」係

Tel : 0285-58-7045 Fax : 0285-44-3625

E-mail : jichinyu@jichi.ac.jp

2019年 自治医科大学 高校生小論文コンテスト・スピーチ動画コンテスト

自治医科大学は、これまで約50年間にわたり、地域医療の担い手を育て地域医療のあり方を提案し続けてきました。このコンテストは、次世代を担う高校生の皆さんと一緒に、身近な地域医療のあるべき姿を考えたいとの思いから始まりました。昨年は小論文コンテストを行い、今年は、さらに動画も募集することにしました。小論文または動画での、高校生の皆さんからの生の声をお待ちしています。

【テーマ】デジタル時代の地域医療とは〇〇である*

*〇〇の中に、語句（10字以内）を入れて小論文またはスピーチのタイトルとして下さい。

【募集内容】

- ・小論文： 文字数1,200字以内の小論文。
- ・スピーチ動画： スピーチ風景（90秒以内）を撮影した動画。

【募集期間】

- ・2019年4月1日(月)～5月20日(月)

【応募方法】

- ・自治医科大学ホームページ内の「2019年度 医学部受験生向けイベント(オープンキャンパス等)のご案内」ページにある「参加申込書」をダウンロードし、「応募方法(詳細)」に従って応募して下さい。
(郵送での応募は受け付けません)。

【注意事項】

- ・応募は、1名につき「小論文」か「スピーチ動画」のどちらか一方のみとし、またグループでの応募は認められません。
- ・応募は、応募者本人が日本語を用いて行った作品で未発表のものに限ります。
- ・本コンテストへの応募作品を他のコンテスト等へ重複して応募することは認められません。
- ・応募作品の著作権は、自治医科大学に属します。
- ・本コンテスト入賞者は、自治医科大学 医師体験セミナーへの招待を前提としていることから、セミナーへの参加を辞退したりセミナーに欠席したりした場合は、大賞および優秀賞の選考から外されます。
- ・応募作品の中で他の著作物を引用する場合は、その箇所を明らかにしてください。
- ・他の著作物からの盗用（全部、一部）が確認された場合は、失格とし、所属高校にその由伝える場合があります。
- ・小論文に図表を付ける場合、2つ以内とします。図表のタイトル、参考文献一覧などは、字数に含みません。

【入賞者の発表】

- ・自治医科大学ホームページで各部門10名（計20名）の入賞者を発表し、本人には郵送でお知らせします。
※入賞者の氏名・学校名・学年および入賞した作品のタイトルを公表することをあらかじめ了承してください。

【表彰式】

- ・2019年7月25日（木）入賞者の中から大賞、優秀賞を発表し表彰します。

【自治医科大学 医師体験セミナー】

- ・2019年7月25日（木）午後～7月26日（金）午前

審査委員長



永井 良三
自治医科大学 学長

1974年 東京大学医学部卒業。医学博士。1983年 米国バーモント大学留学。2003年 東京大学医学部附属病院病院長。2012年より現職。ベルツ賞、日本医師会医学賞など多数受賞。

特別審査員



武藤 真祐
医療法人社団鉄祐会 理事長

1996年 東京大学医学部卒業。2014年 INSEAD Executive MBA。東大病院、三井記念病院にて循環器内科、救急医療に従事後、宮内庁で待医を務める。東京医科大学歯学部臨床教授、日本医療政策機構理事、第2回イノベーター・オブ・ザ・イヤー受賞。



本田 麻由美
読売新聞東京本社
編集局生活部 次長

医療情報部、社会保障部などで主に医療・介護の取材を担当し、認知症や在宅医療の企画を手がけてきた。2002年に乳がんが見つかり、治療を続けながらコラム「がんと私」を朝刊で6年間連載し、国内外の医学記事賞を受賞。厚生労働省厚生科学審議会委員、東大大学院非常勤講師（医療コミュニケーション学）なども務める。



町 亞聖
フリーアナウンサー

1995年に日本テレビにアナウンサーとして入社。その後、報道キャスター、記者としてがん医療、医療事故、難病などの医療問題や介護問題などを取材。2011年にフリーに。母の介護、母と父をがんで亡くした経験をまとめた著書「十年介護」（小学館文庫）は大きな話題を呼んだ。文化放送、ニッポン放送で番組を持つ他、医療、介護問題についての執筆活動も行う。

審査員（自治医科大学教員）

(五十音順)

青山 泰子 准教授（社会学）
秋根 大 病院助教（臨床感染症センター）
浅田 義和 講師（情報センター）
上田 真寿 講師（患者サポートセンター）

小坂 仁 教授（小児科学）
川平 洋 教授（メディカルシミュレーションセンター）
久保 太郎 病院助教（腎臓外科学）
柴山 修哉 教授（生物物理学）

清水 敦 准教授（緩和ケア部）
高瀬 堅吉 教授（心理学）
菱川 修司 准教授（先端医療技術開発センター）
福嶋 敬宜 教授（病理診断部）

